

令和 8 年 5 月 13 日

院外処方における問合せ簡素化プロトコル【JCHO 中京病院版 Ver. 3.0】

JCHO 中京病院 薬剤部

JCHO 中京病院 薬剤委員会

<目的>

保険薬局からの問合せの中には、調剤上の形式的な変更に関するものも多く含まれ、処方医や薬局薬剤師の業務負担になっている。

処方箋による調剤を規定している薬剤師法 23 条第 2 項では、「薬剤師は、処方箋に記載された医薬品につき、その処方箋を交付した医師、歯科医師または獣医師の同意を得た場合を除くほか、これを変更して調剤してはならない」と規定している。

通常、処方箋が交付された後に医師への変更の同意を得るが、事前に双方合意のもとでプロトコルを作成することで、事前に医師への変更の同意の取得を行うようにする。事前同意で医師への問合せを減らしたい。

<問合せ簡素化プロトコルの原則>

1. 事前合意プロトコルに基づく問合せの運用は、当院及び保険薬局双方による「問合せ簡素化における合意書」（以下、合意書）の締結をもって実施されること。
2. 合意書に基づく変更であっても、服用方法・安定性・価格などについて、患者に十分な説明を行い、同意を得た上で変更すること。
3. 処方変更は、医薬品の適応及び用法用量を順守した変更であること。その際、安定性や溶解性、体内動態などを考慮し、薬学的に問題がないことを確認するとともに、アドヒアランスや利便性が向上する場合に限ること。
4. 麻薬・抗がん剤・覚せい剤原料および注射薬や、処方せんに「不可」と指示がある場合はプロトコルの対象外であること。
5. 判断に悩む場合は、保険薬局で拡大解釈をせず、必ず疑義照会すること。
6. 保険薬局での患者の待ち時間短縮や処方医の負担軽減の観点から、院外処方に関する保険薬局からの問合せに関して、包括的に薬剤師法第 23 条第 2 項に規定する医師の同意がなされたものとして、各項目（①～⑩）の対応を認める。
7. プロトコルにより問合せを簡略化された場合には保険薬局から当院にトレーシングレポートを FAX により提出し情報提供を行う。



② 剤形の変更（先発品類似剤形への変更を含む）

例：プロチゾラム OD錠 0.25mg 「サワイ」

→ プロチゾラム OD錠 0.25mg 「JG」

→ レンドルミンD錠 0.25mg

→ プロチゾラム錠 0.25mg 「JG」

→ レンドルミン錠 0.25mg

例：カロナール錠 200mg 1.5錠

→ カロナール錠 300mg 1錠

→ アセトアミノフェン「VTRS」原末 0.3g

\* 下記に掲げる（ア）（イ）（ウ）の範囲内で変更を可能とする（先発、後発は問わない）。

（ア）錠剤（普通錠）、錠剤（口腔内崩壊錠）、カプセル剤、丸剤、ゼリー剤（1回分包装の場合）、フィルム剤（口腔内崩壊剤）

（イ）散剤、顆粒剤、細粒剤、末剤、調剤上粉碎となる錠剤、粉碎指示のある錠剤、ドライシロップ剤（内服用固形剤として調剤する場合に限る）

（ウ）液剤、シロップ剤、ドライシロップ剤（内服用液剤として調剤する場合に限る）

※ クリーム剤⇔軟膏、テープ剤⇔パップ剤の変更は不可。

※ 患者に（飲み方、価格等）説明し、同意の上調剤すること。また、「おくすり手帳」による情報提供を徹底すること。

※ 体内動態等も考慮し、用法・用量が変わらない場合のみ可とする。

③ 複数規格製剤がある場合の処方規格の変更

例：5mg錠 1回2錠 → 10mg錠 1回1錠

例：40mg錠 1回0.5錠 → 20mg錠 1回1錠

④ 服薬状況等の理由により処方薬剤を半割や粉碎、混合すること、あるいはその逆（規格追加も含む）。

逆の例：（粉碎）ワーファリン錠 1mg 2.5錠 → ワーファリン錠 1mg 2錠

ワーファリン錠 0.5mg 1錠

⑤ 処方薬剤を服薬状況等の理由により、一包化調剤すること

※ 患者希望あるいはアドヒアランス不良が、一包化により改善されると判断できる場合に限る。

※ 患者希望により一包化を外すことも可。

⑥ 湿布薬や軟膏での規格変更に関すること（合計処方量が変わらない場合）。

例：ロコイド軟膏 0.1% (5g) 2 本 → ロコイド軟膏 0.1% (10g) 1 本

例：セルタッチパップ 70(6 枚入)×7 袋 → セルタッチパップ 70(7 枚入)×6 袋

⑦ 患者希望によるフレーバー変更。

例：ラコール NF 配合経腸用液 200mL (ミルク) → (コーヒー)

例：カリメート経口液 20% (アップルフレーバー) → (オレンジフレーバー)

⑧ 経過措置などによる一般名への変更による名称変更。

例：マグラックス錠 330mg → 酸化マグネシウム錠 330mg

⑨ DPP-4 阻害薬の週 1 回製剤、あるいはビスホスホネート製剤の週 1 回、月 1 回製剤が、連日投与の他の処方薬と同一日数で処方されている場合の処方日数の適正化（処方間違いが明確な場合）。

例：(他の処方薬が 14 日分処方するとき)

ザファテック錠 100mg (週 1 回製剤) 1 錠 分 1 朝食後 14 日分 → 2 日分

ベネット錠 17.5mg (週 1 回製剤) 1 錠 分 1 起床時 14 日分 → 2 日分

⑩ 「1 日おきに服用」・「週 3 日月水金」などと指示された処方薬が、連日投与の他の処方薬と同一の日数で処方されている場合の処方日数の適正化（コメントが明記されているなど処方間違いが明確な場合）。

例：(他の処方薬が 30 日処方の時)

バクタ配合錠 1 錠 分 1 朝食後 1 日おき 30 日分 → 15 日分

<処方変更・調剤後の連絡>

処方変更し調剤した場合は、変更内容を記入した処方箋コピーをトレーシングレポートに貼付して FAX 送信してください。また迅速に処方内容を修正するためにできる限り当日中に FAX 送信をお願いします。ただし、後発品の変更調剤については本プロトコルの合意締結の有無に拘らず全て連絡不要とします（可能な限りお薬手帳に記載して下さい）。

<処方データ修正に関する注意事項>

院外処方箋の表記については、当院電子カルテのマスターの関係から変更が行われない場合があります。

関係法令等

薬剤師法第 23 条 2 項

薬剤師は、処方せんに記載された医薬品につき、その処方せんを交付した医師、歯科医師又は獣医師の同意を得た場合を除くほか、これを変更して調剤してはならない。

薬剤師法第 24 条

薬剤師は、処方せん中に疑わしい点があるときは、その処方せんを交付した医師、歯科医師又は獣医師に問い合わせ、その疑わしい点を確認した後でなければ、これによって調剤してはならない。

保険医療機関及び保険医療養担当規則第 23 条 2 項

保険医は、その交付した処方せんに関し、保険薬剤師から疑義の照会があつた場合には、これに適切に対応しなければならない。

\*厚労省による医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について（抜粋）

（平成 22 年 4 月 30 日医政発 0430 第 1 号）

各医療スタッフの専門性を十分に活用して、患者・家族とともに質の高い医療を実現するためには、各医療スタッフがチームとして目的と情報を共有した上で、医師等による包括的指示を活用し、各医療スタッフの専門性に積極的に委ねるとともに、医療スタッフ間の連携・補完を一層進めることが重要である。

①薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更や検査のオーダーについて、医師・薬剤師等により事前に作成・合意されたプロトコルに基づき、専門的知見の活用を通じて、医師等と協働して実施すること。

令和 3 年 7 月 1 日 薬剤部作成

令和 3 年 7 月 20 日 薬剤委員会承認

令和 4 年 9 月 14 日 更新 Ver. 1. 1

軽微な修正および<規格と適応症に注意が必要な薬剤の例>の追記

令和 5 年 11 月 21 日 更新 Ver. 2. 0

運用の名称変更：

『疑義照会簡素化プロトコル』→『問合せ簡素化プロトコル』

令和 8 年 5 月 13 日 更新 Ver. 3. 0

プロトコルの対象外に「注射薬」を明記

①残薬調整の記載を削除（本プロトコルと別運用のため）